

令和7年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 大島支庁沖永良部事務所農業普及課

課題名② さといも産地の育成～与論町～(温暖な気候を活かした園芸産地の育成)						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	5	2	0	・さといも生産農家の数を増やすことが大事	・引き続き、来年度の普及指導計画においても当課題を重点活動として関係機関と連携して取り組むこととしている。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	4	3	0	・連産障害等の発生はないか？	・疫病や乾腐病は、一度発生したほ場では対策を講じないと年々被害が拡大する傾向がある。そのため、今後も継続して適切な防除対策を実施していく。
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	3	4	0	・役場、農協の支援(協力)、立ち位置が見えてこない。	・実際の活動では、常に関係機関団体との連携のうえ活動を実施しているところ。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	3	4	0		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	3	3	0		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	4	2	1	・高齢化、労働力不足は、これから先もずっと課題として残るので、次はその対策に力を入れ生産者、生産量の確保に努めてほしい。	・引き続き、来年度の普及指導計画においても当課題を重点活動として関係機関と連携して取り組むこととしている。
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	2	4	1	・里芋、肉用牛、サウキビが与論島の主幹作物であるが、新品目等の取り組みはなされているか？	・新規品目への取り組みはあまり進んでいないが、さやいんげんのセグロウリミバエ対策として、スナッペンどうの栽培が開始された。そのため、当面は出荷・販売体制が整っているさといも・さやいんげんの産地維持・拡大を優先している。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	3	3	1		

令和7年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 大島支庁沖永良部事務所農業普及課

課題名② さといも産地の育成～与論町～(温暖な気候を活かした園芸産地の育成)						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	10	2	0	・ドローン防除の際、畜産向け草地への飛散の問題は出ていないでしょうか？	・隣接地に飼料畑がある場合は、ドローン防除は中止する。やむを得ず実施する場合は、事前に畜産農家へ確認し、隣接するさといも畑で3m以上の無散布区域が生じることについて了承を得る。併せて、薬剤の飛散が発生しないよう十分配慮して散布を行う。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	11	1	0		
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	9	3	0	・優良種子導入のため、両島及び経済連と協力し、産地の維持に努めましょう。	・引き続き、来年度の普及指導計画においても当課題を重点活動として関係機関と連携して取り組むこととしている。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	10	2	0		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	10	2	0		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	8	4	0	・梅雨明け以降の開始でマルチは大丈夫か？ ・2連畝立て施肥マルチャーや半自動移植機での作業時間削減を行いながら農業者高齢化対策を推進してください。	・マルチは、乾腐病菌の消毒に必要な地温43℃以上を確保するために有効である。8月上旬は、日最高気温30℃超や日照時間8時間以上の日が多く、十分な地温上昇が見込まれる。一方、梅雨明け直後から準備すれば、猛暑期の作業を避けつつ、より早期に確実な消毒効果が期待できる。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	9	3	0		
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	8	4	0	・1条植えの省力化についておそらく丸形の畝形となっていると思うので、収穫作業の労力も削減されていると思うため、その比較もあると作業時間削減効果は非常に大きいと思う。その比較があればよかった。 ・疫病及び乾腐病の予防策として、その他作物への応用も期待する。	・引き続き、来年度の普及指導計画においても当課題を重点活動として関係機関と連携して取り組むこととしている。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	8	4	0		

さといも産地の育成～与論町～ (温暖な気候を生かした園芸産地の育成)



沖永良部事務所農業普及課
与論町駐在 満吉俊也

1

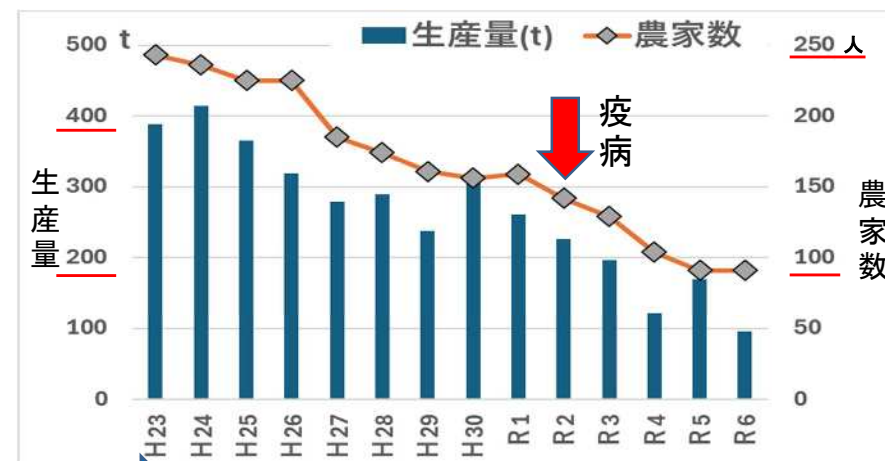
本日の発表内容

1. 産地の現状と課題
2. 課題への取組み
 - (1) 疫病防除技術の確立・普及
 - (2) 省力化（機械化）の検討
3. 成果
4. 今後の取組み

2

1 産地の現状と課題

さといも生産量の推移



課題 → 疫病防除技術の確立・普及

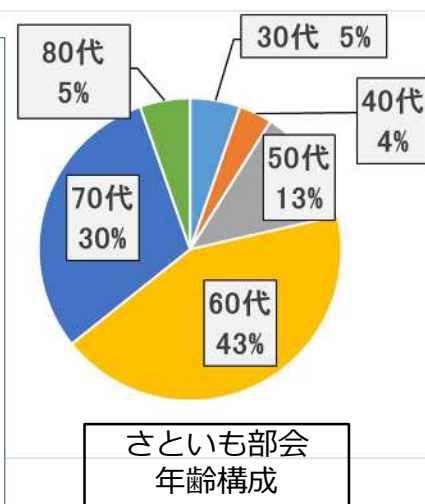
3

1 産地の現状と課題

トラクター・動噴を持たず、農薬散布もできない
高齢・小規模農家が多い

課題

簡易な技術
省力化技術
作業受託体制の整備

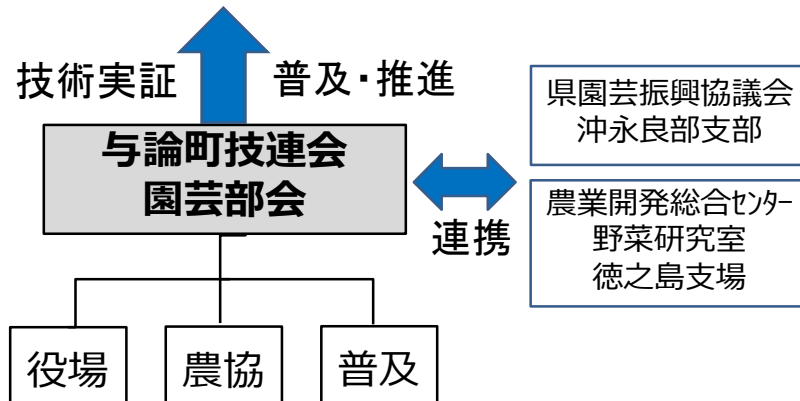


4

2 課題への取組み 活動体制

(対象)

与論町野菜振興会 さといも部会



5

2 (1)疫病防除技術の確立・普及

① ~~残さない~~ 残渣処理
持ち出し・ほ場での分解(耕耘)

残渣の簡易処理技術

(2) 持ち込まない → 種いも選別 + 消毒

(3) 増やさない → 適期防除
防風対策・薬剤散布

ドローン委託防除

➡ **与論版さといも疫病IPM防除体系**

7

2 (1)疫病防除技術の確立・普及

● **疫病** (糸状菌の一種 Phytophthora)

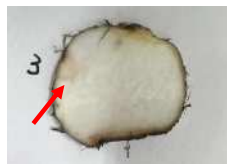
- ・ 葉(斑点), 葉柄, いも(腐敗)に発生する。
- ・ 疫病菌は風雨により数百mはすぐに拡散する。
夏期温暖(27℃以上)で多雨のとき発生が多い。
- ・ 疫病菌は芋や残さに付着して越冬するため次年度の発生源となる。



葉の病斑



葉柄は折れやすくなる



疫病菌が感染した芋。
(矢印の変色部から菌を検出)

2 (1)疫病防除技術の確立・普及

● **残渣の簡易処理技術**

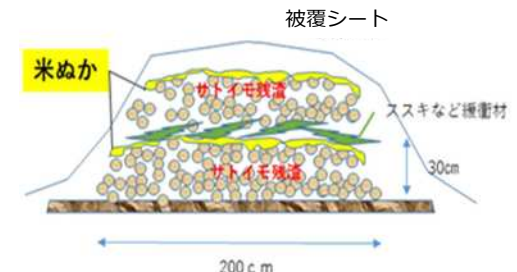
さといも残渣10 a 分

- ・ 米ぬかを3袋(約45kg)を添加
- ・ 適度に加水後,
- ・ ビニールシート等で約1か月(～3か月)被覆し放置する



＜さといも疫病菌＞

- ・ **46℃, 5分間**で死滅
- ・ 卵孢子でも44℃, 5分間の温度で出芽せず, コロニーを形成しない
(H30県病害虫試験成績より)



8

2 (1)疫病防除技術の確立・普及

(1)残渣の簡易処理の結果

- 被覆開始(7月27日) 5日後(8月1日) 中心付近温度56℃
8月4日にはピークの60℃

9月を過ぎると疫病菌死滅
温度46℃を下回った。

- 残渣の処理物から疫病菌・乾腐病菌は検出されなかった。



9

2 (1)疫病防除技術の確立・普及

●適期防除

・ドローン委託防除(令和4年～)

令和2年開発センター試験
(効果確認)

令和3年ダイナモ顆粒水和剤
登録

令和4年委託防除開始～6年
経済連

①4月23日13人123 a ②5月25日18人178 a

令和7年 Agri Tech(株)沖縄県

①4月30日7人130 a

②5月29日8人58 a



2 (1)疫病防除技術の確立・普及

●適期防除

・広報(呼びかけ)

平均気温21℃前後が10日連続する時期や台風後

→農協選果場
提示
町内放送・
町週報で周知

今年は暖かく、
既に**さといも疫病**の発生時期になりました！
激発前に初期防除の徹底を！
※疫病は日平均気温21℃前後が10日間連続すると発生しやすくなります。

薬剤名	濃度	使用回数	PRAC コード	減収の 発生割合
ジークワイン水和剤	1000	収穫前日まで	NC M1	—
ダイナモ顆粒水和剤	1000	収穫21日前まで	21 27	3 3
アミスター20 フロアブル	2000	収穫14日前まで	33	23

■さといも疫病は圃場周辺の株の中・下位葉で見つかりやすいので初発の目安としてください。

10

2 (1)疫病防除技術の確立・普及

○与論版さといも疫病IPM防除体系

展示ほ結果

(残渣の簡易処理, 種芋選別+消毒, ドローン防除)

・疫病発生: 葉の病斑点1～2個の発病株率36%
いもの発生4% (目標10%以下)

・収量: 280kg/a (目標200kg/a)

2(2) 省力化（機械化）の検討

(1) 2連畝立て施肥マルチャー

←施肥・畝立て・マルチ

→畝内太陽熱消毒による
乾腐病防除効果
(全面被覆の省力化)



(2) 半自動移植機

→機械による植付け

←芽出し作業の省力

2条植えと1条植えの比較



13

2(2) 省力化（機械化）の検討

通常栽培（慣行栽培）**2条植え**
畝幅120cm 株間20～25cm，
条間25cm 8,300～6,600株/10a

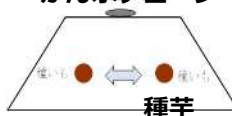
作業手順

耕耘→施肥（平畝）→種芋を置く
→培土・マルチ

重粘土土壌のためマルチに穴を
あけて種芋を差し込む方法は行わ
れていない



かん水チューブ



14

機械：1条植え

2(2) 省力化（機械化）の検討

作業時間 の比較 （10aあたり）

作 業 内 容	実証区（機械化）	慣行区（手作業）
施肥・畝立・マル チ	2時間（2人作業）	4時間（2人作業）
植付け・芽出し	2.5時間（2人作業） 芽出し作業なし 畝幅100cm、株間25cm 1条植え、4,000個/10a	24時間（2人作業） 畝幅120cm、株間20cm 2条植え、8,300個/10a

※慣行区の作業時間は県農業経営管理指導指標，農家聞き取りで算出

慣行と比較すると作業時間は85%削減した。
機械植えの収量は205kg/a（地域平均並）

15

2(2) 省力化（機械化）の検討

● 乾腐病（糸状菌の一種 Fusariumフザリウム）

- ・主にいもに発生し，初期はいもを切断すると赤色小斑点がみられる。
- ・症状が進むと中心部はスポンジ状に乾腐して空洞化する。
- ・菌は発病残さに付着して越冬し，土壌や種いもで伝染。

R6年よりR7年は
発生が多くなって
いる。

（アンケート結果より）



芋切断面の赤色小斑点



スポンジ状に乾腐 16

2(2) 省力化（機械化）の検討

消毒期間(9月5日～10月3日)の地温積算時間

(単位：時間)

地温	50℃ 以上	45～ 50℃	43～ 45℃	40～ 43℃	35～ 40℃	43℃以 上積算
地下10cm	15	39	22	26	75	75
地下20cm	0	19	21	49	96	40

※フザリウム属菌（エンドウ苗立枯病菌）の消毒に必要な地温の積算時間
43℃で48時間、45℃で36時間、50℃で24時間（和歌山県試験より）

9月5日からの開始で地下20cmの積算温度は
防除に必要な温度には足りていない。
梅雨明け以降の開始で十分条件を満たすと推測。
(最高気温：30℃以上、日照時間：8時間/日)

17

3 成果のまとめ

○与論版さといも疫病IPM防除体系の
認知度の向上（アンケート結果より）

令和5年：62%→令和7年：78%

○2連畝立て施肥マルチャーと半自動
移植機の活用による作業時間削減
効果等はある程度確認

→受託体制整備

→高齢化・労働力不足対策

18

4 今後の取り組み

- 疫病（与論版さといも疫病 I P M防除系）・
乾腐病対策の普及・定着
- 各種技術(畝内土壌消毒・作式等)の
効果検証・技術確立
- 省力化・受託体制の確立・他品目との
連携による生産性向上



さといも産地の拡大（出荷量300 t）

- ご清聴ありがとうございました。¹⁹